

朝鮮戦争				
出版社	頁	項目	記述	コメント
大阪書籍	217	新しい中国と朝鮮戦争	この両国は次第に対立し、1950年、北朝鮮が韓国に 侵攻 して朝鮮戦争が始まりました。平和を望む国際世論が高まるなか、1953年に休戦協定が結ばれました。 ※太字は引用者による。以下、同じ。	単に「侵攻」と記述。なぜ開戦されたのか分からない。
教育出版	185	朝鮮戦争	冷戦は、朝鮮半島で火をふきました。1950年6月、北朝鮮が武力統一をめざし、 ソ連の支援 を受けて南下したことをきっかけに朝鮮戦争がはじまりました。国連は、北朝鮮への制裁を決め、アメリカ軍を主力とする国連軍を出動させました。その後、中華人民共和国が参戦し、北朝鮮を援助しました。戦争は、1953年に休戦協定が成立するまでつづきました。	「武力統一をめざしソ連の支援を受けて南下した」と記述。 184～185頁に「火をふく38度線 冷戦と占領政策の転換」という節を設定し、この戦争を掘り下げて理解させようとしているが、朝鮮人の戦争体験にせまるような記述や問いかけがない。
清水書院	218～219	占領政策の転換と朝鮮戦争	「二つの世界」の対立はアジアにもおよんだ。1950年、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)が南進して大韓民国(韓国)とのあいだに戦争(朝鮮戦争)がはじまると、アメリカ軍(国連軍(注))は韓国を、中華人民共和国は北朝鮮を支援して、はげしい戦いがつづいた。1953年には休戦となったが、この戦争のあいだ、日本にはアメリカ軍の軍需品の生産・修理・輸送の注文が殺到し、日本経済は好景気(特需景気)となって、これをきっかけに経済は上向きとなった。 (注) 朝鮮戦争がおこると、国連安全保障理事会は、 ソ連が欠席したまま で北朝鮮を侵略者としてきめ、武力制圧のための国連軍をおくることとした。国連軍はアメリカ軍を中心に編制された。	国連安保理におけるソ連欠席を記述。
	216	【発展(発展学習コーナー)】 冷戦の激化	1950年に朝鮮民主主義人民共和国は、 ソ連の軍事力 を背景に 南進 をはじめました。アメリカは国連軍の中心として大韓民国を全面的に支援し、東西の対立は戦争(朝鮮戦争)へと発展しました。核戦争となる危険もありましたが、1953年に休戦協定がむすばれて、 いちおうの終結 をみました。	「ソ連の軍事力を背景に南進をはじめたと記述。これでは開戦の目的がわからない。ただし、「いちおうの終結」という表現は休戦協定の本質であり、正確である。
帝国書院	223	朝鮮戦争	1950年6月、北朝鮮軍が朝鮮を統一しようと 北緯38度線をこえたため 、朝鮮戦争がはじまりました。その後、アメリカ軍を中心とする国際連合軍が韓国を支援し、北朝鮮には中国の義勇軍が加わりました。朝鮮戦争は、激しい戦闘の末、1953年に休戦協定が結ばれました。	「朝鮮を統一しようと北緯38度線をこえたため」と記述。
東京書籍	207	植民地の解放とアジア	1950年、北朝鮮が韓国に 侵攻 して、朝鮮戦争が始まりました。アメリカ中心の国連軍が韓国を、中国の人民義勇軍が北朝鮮をそれぞれ支援し、戦争は、1953年に休戦協定が結ばれるまで続きました。	単に「侵攻」と記述。なぜ開戦されたのか分からない。しかも、朝鮮戦争関連の地図がなく、戦況がわからない。 ただし、現行版にはなかった「アメリカ中心の国連軍」・「中国の人民義勇軍」の表現がある。

日本書籍 新社	223	朝鮮戦争	<p>ドイツと同じように南北に分断されていた朝鮮では、朝鮮民主主義人民共和国が武力による統一をくわだて、1950年6月に大韓民国を侵攻して朝鮮戦争がはじまった。アメリカ軍を中心とする国連軍は韓国を支援して参戦し、中国も北朝鮮を支援して義勇軍を送ったため戦争は長期化し、1953年に休戦協定が結ばれるまで一進一退の戦闘がつづいた(注)。</p> <p>(注)この戦争での朝鮮人の死者は民間人300万人以上、軍人55万人とされている。また、多数の家族が南北に離散することになった。</p>	<p>「武力による統一をくわだて」「侵攻」したと記述。 戦争による犠牲、離散家族について記述。とくに犠牲者については数字も提示して詳しく書かれていて、評価できる。</p>
日本文教 出版	202	北緯38度線	<p>1950年6月、北朝鮮は、武力による統一をめざして南下し、北緯38度線をこえて韓国の軍隊と衝突した。ついに冷戦は、朝鮮半島で熱い戦争となった(朝鮮戦争)。人々は、上の写真のように、戦火をのがれて避難した。国連の安全保障理事会は、ソ連の欠席する中で、北朝鮮を侵略国として決議し、アメリカを主力とする国連軍を韓国に派遣した。中国は、国連軍が中国国境までせまると、北朝鮮に義勇兵を送った。朝鮮半島全域ではげしい戦いがつづいた。北緯38度線を中心に一進一退の戦いがくり返され、1953年、ようやく休戦協定が成立した。</p>	<p>「武力による統一をめざして南下」と記述。また、国連安保理にソ連が欠席したことを記述。また、戦火をのがれる人々に注目させる記述もある。これらの諸点は評価できる。 ただし、中国が「義勇兵」を送ったとする記述については、白表紙本の通りに「義勇軍」とすべき。</p>
扶桑社	217	占領政策の転換	<p>1950年6月、北朝鮮は、南北の武力統一をめざし、ソ連の支持のもと突如として韓国へ侵攻した。韓国軍と、マッカーサーが指揮するアメリカ軍主体の国連軍がこれに反撃したが、戦況は一進一退をくり返し、戦争は1953年に休戦協定が結ばれるまで続いた(朝鮮戦争)。</p>	<p>「武力統一をめざし」「ソ連の支持のもと」「侵攻」したと記述。しかし、「突如として」という表現は一触即発的な南北対立の状況を無視している。</p>